

日本の介護 中国で

令和の主役

— 4 —

「おいしい?」。入所者を安心させるように、柔らかい表情で問い掛ける。嚥下食をスプーンで一口大に切り、丁寧な手つきで口元へ運ぶ。喉の動きを確認しながら、次の一口へ。中国・江蘇省出身の張芸荃さん(23)は1月から、氷見市鞍川の老人保健施設「アルカディア氷見」で、外国人技能実習生として介護を学んでいる。

同施設で食事をはじめ、入浴や排せつなど、さまざまな介護スキルを身に付けることに励む。担当する一般棟には、約40人のお年寄りらが入所しており、脳梗塞や脳内出血などで体にまひが残った人が多いという。「今の仕事はボジ

アルカディア氷見 外国人実習生

張 芸荃さん(23)



外国人技能実習生として、入所者の食事を助ける張さん
|| アルカディア氷見

は君の嘘」「氷菓」など。日本語の話し方や読み方はアニメで覚えた。

高校生の時に祖母をがんて亡くしたことがきっかけで医療の道志し、江蘇省の南通大看護学部に進んだ。3年生のとき、専門学校に通い日本語を学んだ。大学卒業と前後して国家資格である看護師の資格を取った。

「中国には、日本の介護福祉士のような介護に携われる国家資格がないんです。デイサービスなどを提供する施設もなく、介護が必要になれば家族で世話をするのが一般的という。ただ、日本と同様に少子高齢化が進んでおり、家族だけで面倒を見切れなくなっているのが実情だという。「中国でも介護の需要が高まってきている」と感

進

令和へ一文字

日本の介護の仕組みや技術をしっかりと吸収し、将来は今よりも優秀な自分になるため、毎日進歩したい。年号が変わるということを知らずに来日したので驚いた。中国には日本の文化が好きで若者が多い。令和の時代には、中国と日本が今よりもさらに良好な関係を築けるといい。

現場で先進的技術学ぶ

「中国には、日本の介護福祉士のような介護に携われる国家資格がないんです。デイサービスなどを提供する施設もなく、介護が必要になれば家族で世話をするのが一般的という。ただ、日本と同様に少子高齢化が進んでおり、家族だけで面倒を見切れなくなっているのが実情だという。「中国でも介護の需要が高まってきている」と感じる。

日本政府は人手不足対策として、外国人労働者の受け入れを進める方針。県内の外国人技能実習生は年々増えており、2017年末時点で4906人だった。今後、さらに来県する人数が増える可能性がある。特に、人手不足が深刻な介護職では、受け入れに前向きな施設が少なくない。

張さんには、日本で学んだ技術を中国に持ち帰り、指導者として広めたいという夢がある。「日本の介護は、本人に残っている力を生かすという考え方で、先進的だと思う。日本のような介護を提供してくれる施設が、中国でも増えたい」。その一助となるべく、張さんは介護の現場と向き合い続ける。

(高岡編集部・田辺泉季)